



10月号

令和2年9月30日

横浜市立東中田小学校

校長 天野 直美

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

鑑定団方式で！

校長 天野 直美

テレビ東京「なんでも鑑定団」をよく見ます。持ち主がお宝にまつわるエピソードや思いを語り、番組がお宝の価値を学術的に説明し、鑑定が行われ、いざ結果の発表。「一、十、百、千、万・・・」すごい値段が付くときもあれば、残念ながら付かないときもあります。たとえ本物であっても世の中のニーズによって値段が変わることもあります。鑑定の結果で一喜一憂する人々の姿が面白い番組です。

私にはこの番組で好きなところが3つあります。まずは持ち込まれたお宝の紹介です。偉人の手紙や美術品、懐かしいおもちゃなど、持ち主とお宝の出会いやその価値について知りつつ鑑賞することができます。次に鑑定です。鑑定士たちは美術品などの真贋を、根拠をもって説明し決然と鑑定します。最後にお宝の持ち主と司会者や鑑定士との掛け合いです。「これは怪しいですよ。」「もし本物だったらお金に換えますか？」など、司会者がユーモアたっぷりに問いかけ、持ち主のお宝に寄せる思いを引き出します。結果が残念だった時の言葉がけが特に秀逸です。「ああ残念。やっぱり怪しいと思ったもの。これからどうしますか？もうお宝収集はやめるの？」と司会者が、そして鑑定士が「残念でしたが、使ったり飾ったりして楽しんでください。」と声掛けします。相手の気持ちを察しながらも、切り替えて次の楽しみや生き方につなげられるような心配りをしていることを感じます。

学校では「指導と評価の一体化」という考え方で、日常的に学習評価を行っています。授業には指導目標があります。教師は「目標に到達出来ているか」を見取るために具体的観点をつくります。そして授業を行います。観点到照らして、授業で子どもが出来たことや課題を明らかにし、子ども自身が気づくことができるように助言したり指導したりします。1回だけのテストの点数や作品の出来栄だけでは評価しません。何回かの学習の機会をつくり、児童の発想力や取組、成長を認めながら、生きて働く知識・技能、思考力・判断力などを高めていきます。私には「なんでも鑑定団」の番組づくりと重なって見えます。

前期がまもなく終了します。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じているため、前期評価としてお知らせするにはデータが少ない項目があり、お渡しする「あゆみ」は、確実にお知らせできる範囲での記述となっております。学年末で1年を通したお子様の成長や長所、学校での支援の手立てなど全体を明らかにして、次の1年につながるようご報告するつもりですが、コロナ対策に明るい光がまだ見えない中でできるのか不安もあります。それで、日々の成果物や連絡帳、子どもの振り返り（キャリアパスポート）、学校から発信される便りや個人面談等を通して、保護者の皆様には適宜お子様の様子や成長する姿を伝えてまいりますので、ご理解ください。保護者の皆様には「なんでも鑑定団」の「励まし」の役割をぜひ我々と共に願います！



3年 新江の島水族館バス遠足の様子